

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和5年度第2回益田市総合戦略審議会																
開催日時	令和5年11月1日（水）13：30～16：30																
開催場所	市民学習センター202号																
出席者	<p>○出席者</p> <p>〔審議会委員〕 森本恭史会長、藤原真砂委員、渡辺淳一委員、森脇秀治委員、澄川聡美委員、吉崎浩之委員</p> <p>〔事業担当課〕</p> <table border="0"> <tr> <td>先端開発推進課</td> <td>矢田課長</td> </tr> <tr> <td>子ども福祉課</td> <td>澄川課長、千振課長補佐</td> </tr> <tr> <td>観光交流課</td> <td>観光交流課、城市課長補佐、澤江室長（空港）</td> </tr> <tr> <td>産業支援センター</td> <td>松本所長</td> </tr> <tr> <td>都市整備課</td> <td>桐木課長、山田主任主事</td> </tr> <tr> <td>学校教育課</td> <td>田原課長、杉原参事</td> </tr> <tr> <td>協働のひとづくり推進課</td> <td>岡崎課長、田淵主査</td> </tr> <tr> <td>文化財課</td> <td>中司主任</td> </tr> </table> <p>〔事務局〕 石川政策企画局長、田原政策企画課長、石田総合戦略室長、吉田主任主事</p> <p>○欠席者</p> <p>〔審議会委員〕 竹内直実副会長、重親政継委員、大屋剛委員</p>	先端開発推進課	矢田課長	子ども福祉課	澄川課長、千振課長補佐	観光交流課	観光交流課、城市課長補佐、澤江室長（空港）	産業支援センター	松本所長	都市整備課	桐木課長、山田主任主事	学校教育課	田原課長、杉原参事	協働のひとづくり推進課	岡崎課長、田淵主査	文化財課	中司主任
先端開発推進課	矢田課長																
子ども福祉課	澄川課長、千振課長補佐																
観光交流課	観光交流課、城市課長補佐、澤江室長（空港）																
産業支援センター	松本所長																
都市整備課	桐木課長、山田主任主事																
学校教育課	田原課長、杉原参事																
協働のひとづくり推進課	岡崎課長、田淵主査																
文化財課	中司主任																
議題	<p>1 「総合戦略の検証」について</p> <p>2 「実績報告と評価」（11指標、8課、16事業）</p> <p>3 『『デジタル田園都市国家構想総合戦略』を踏まえた益田市総合戦略の改訂』について</p>																
公開・非公開の別	公開																
傍聴人の数	1名																
問合せ先	政策企画局政策企画課 電話 0856-31-0121																

審議経過

1. 開会	○挨拶
2. 審議内容	
	(1) 「総合戦略の検証」について
事務局からの説明（資料1-1、1-2、1-3）	<p>○検証の目的、検証作業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象事業 R4年度でKPIが設定されている事業で「達成度が70%未満」のもの R3～R7年度までの累計でKPIが達成されている事業で「達成度が60%未満」のもの ※その他の事業（資料2：目標指標管理表）は、事業効果のあった継続事業として一括判定
	(2) 「実績報告と評価」（資料2、事業シート）
	○横断戦略「益田市で地域活動をした県外の若者の延べ人数と満足度」 対象事業：市内高校連携推進事業費（協働のひとづくり推進課）
協働のひとづくり推進課	「市内高校連携推進事業費」について説明する。この事業は令和4年度より「ひとづくり推進事業費」から分かれた事業であり、内容としては市内4高校

	<p>(益田・翔陽・明誠・益田東)の魅力化を推進、魅力の発信のため、財政的(委託料・補助金)な支援をするもの。</p> <p>指標の管理においては、4高校のうち、私立2校(明誠・益田東)が私立高等学校魅力化活動補助金を活用して実施した補助事業へ参加した生徒のうち、県外出身者の人数をカウントしたのとなっている。</p> <p>R4年度の実績は、R3年度と比べると大幅に減少している。これは県外出身者が積極的に参加できる補助事業が構築されなかったためだと考える。行政側の意図をくみ取った事業構築が出来ておらず、その点に関してアプローチ不足であった。今後は未来の担い手コンソーシアムなどにより、これまで以上に関係を密にし、連携して事業を推進していきたい。</p>
委員	R4年度実績の64人の詳細と、具体的な取組について教えていただきたい。
協働のひとづくり推進課	<p>明誠高校では益田市の食に関する冊子の作成や、公民館や地域に赴き、地域の課題解決や探究活動といったキャリアサポート事業を実施した。冊子作製に携わった県外出身生徒は6名、キャリアサポート事業に参加した県外出身生徒は49名であった。</p> <p>益田東高校では、eスポーツの推進を実施した。eスポーツ部の開設や環境整備、大会の開催などである。大会について、県外出身生徒の参加者数が9名であった。</p>
委員	進捗管理欄における、人数と%の記載について。R4年度実績では64人に対して80.0%の達成率、R3年度においては225人に対して88.5%の達成率とあり、人数が大きく異なっているが達成率に差がないことについて説明をお願いします。
協働のひとづくり推進課	<p>人数は「益田市で地域活動をした県外若者の延べ人数」で、%は「参加者等の満足度」である。</p> <p>よって、R7年度目標「300人/80%」に対し、R4年度実績は、人数は64人/300人≒21.3%で、満足度では目標値の80%に達しているため100%となっている。</p>
委員	これまで200人以上の実績であったがR4年度に64人まで減少した要因を教えてください。
協働のひとづくり推進課	明誠高校が継続的な事業で毎年同様な取組を実施しているのに対し、益田東高校では、毎年度テーマが変わっていることが要因であると考えている。益田東高校のR3年度の取組は、対話の場を設け、対話を促進するような内容であったため、参加者が多かった。また、それを通じた地域交流についても対象となる生徒が多かった。一方で、R4年度はeスポーツの推進ということで特定の生徒しかアプローチ出来なかった状況がある。
委員	学校側の各年度の計画に影響されるということか。
協働のひとづくり推進課	学校側の方針と益田市側の狙いが合致しているかどうかが一番大きいと思われる。
委員	この事業を検証するにあたり、人数と満足度の指標があるが、どのように検証したら良いか。
事務局	この事業の実績は人数と満足度(%)という形で出ているため、片方は目標を達成し、もう片方は達成していないという状況を踏まえての検証をお願いします。
委員	先ほど、益田東高校のeスポーツの説明があったが、今年度も引き続き支援してくとすると指標の目標達成は難しいと思われる。益田東高校がせっかくこうしたものを立ち上げたが、目標に達しないという理由で、R5年度は補助を行わず、目標を達成できるような事業を求めることとなるのか。
協働のひとづくり推進課	継続して支援することも可能である。その場合は、さらに魅力を高め、県外出身の生徒が多く関われる内容にしていただく必要がある。実際のところ、今年度は違うテーマで申請されている。昨年度のことも踏まえ、実績が上がるような形で推進していきたい。
委員	この事業について、市は補助金を出すのみか。eスポーツ大会を見に行くなど、具体的な絡みがあれば教えてください。

協働のひとづくり推進課	e スポーツ大会に行くなど、一緒に何かをするということには行っていない。この事業は小中一貫教育に接続する取組であるので、教育委員会としては、小中と連携をしながら高校への接続を進めているところである。
委員	補助金を出すだけでは勿体ないと思う。e スポーツは流行りであり、益田東高校が取り上げなかったら補助しないという仕組みだと、魅力化という目的が達成できないのではないかと。
協働のひとづくり推進課	この事業は市内高校の魅力化に資する取組を支援するという事で進めている。継続性については、高校が主体だと考えている。また、益田市側も支援するからには、自走していただくことも望んでいる。この事業は大きなキャリア教育の一環として捉えており、高校にとってスタートアップのような位置づけでもある。実際、e スポーツ部も無くなった訳ではない。そういった部分も含めて取組んでいる。
委員	私立高校だと特に、高校によって関心事などが異なり難しい部分がある。年度で変わることもあるため、今回のような実績になる可能性もある。何か良いアイデアがあれば良いのだがいかがだろうか。
委員	計画は各高校が立て、その計画に対して市が補助するという仕組み。R4年度の人数の実績がかなり低い数字になっているが、高校側の働きの部分が大きいように思われる。そうすると満足度の指標に目を向けてみるのも大切ではないかと考える。
【評価】	別紙「総合戦略検証評価一覧表 1 ページ シートNo.①」のとおり
○基本戦略1「キャリア教育に参加した企業数」 対象事業：ひとづくり推進事業費（協働のひとづくり推進課）	
協働のひとづくり推進課	「ひとづくり推進事業費」について説明する。目標指標達成のための取組として、この事業の中にある「職場体験」を推進した。 「職場体験」の対象は市内の全中学3年生で、商工会議所等の協力をいただき、職場体験の受入れをしていただける企業を募っている。学校側とも連携しながらマッチングをし、2日から3日、市内の事業所等で仕事体験も含めて色々なことを学ぶ機会となっている。 目標指標は実際に受入れをしていただいた企業数をカウントしており、R3年度は157社、R4年度は135社となっている。コロナ等の影響で、特定の業種については受入れのお断りがあったケース、市内の感染状況などにより生徒を送り出すことが出来なくなったなどのケースもあった。 R4年度の達成率は54%となっており、R3年度との大きな変化として、保健衛生等の件数が挙げられる。R3年度が40件の受入れに対し、R4年度は28件であった。また、認知度も不足していると考えており、今後は商工会議所とさらに連携して情報発信していきたい。
委員	目標の達成は出来ていないが、自己評価においてB評価とした理由を教えてください。
協働のひとづくり推進課	実際に受入れいただいた企業は135社だったが、申込については200社を超えていた。コロナ等の影響でタイミングが悪く実績値のような結果になったが、そういった影響がなければ申込数近くの実績に届いたであろうと判断し、B評価とした。
委員	受入れ企業数は減ったが、参加対象の生徒は全員参加できたか。
協働のひとづくり推進課	参加を希望する生徒は全員参加できたと聞いている。
【評価】	別紙「総合戦略検証評価一覧表 3 ページ シートNo.②」のとおり
○横断目標「先端技術を活用した市内での新規事業数」 対象事業：先端開発推進支援事業（先端開発推進課）	
先端開発推進課	「先端開発推進支援事業」について説明する。この事業は、先端技術を活用したまちづくりを推進するにあたり、実証実験フィールドとして市内外の企業等に益田市を選んでいただくための支援を実施している。 R7年度にこうした新規事業が生まれることを目標にしており、R4年度実績は

	0 件であった。 ※現状、課題、対策については事業シート記載のとおり説明。
委員	現在、実証実験を行っている事業はあるか。
先端開発推進課	R3 年度に 1 件、R4 年度 0 件、R5 年度は 10 月末時点で 0 件である。実際には、ドローンを活用した道路の要修繕箇所の撮影であるとか、森林を撮影し CO2 の吸収量と J クレジットの排出権取引の関係のものなど、個々の企業に声かけは行っており、実証実験まで繋がらないものの意見交換等は実施している。
委員	この事業の最終的な目標は何か。
先端開発推進課	最終的に、市内で収益が生まらせるようなビジネスが創出されることである。
委員	指標として、各年度の実証実験数も必要であると考えているがどうか。
先端開発推進課	資料 2（目標指標管理表）の 6 がそれにあたる。
事務局	今後は、関連する指標も含めて説明するよう気を付けていく。
【評価】	別紙「総合戦略検証評価一覧表 2 ページ シートNo.③」のとおり
○基本戦略 1 「観光入込客数」 対象事業：日本遺産を活かしたまちづくり推進事業、都市交流推進事業 益田版 DMO 支援事業、石見神楽振興事業（観光交流課）	
観光交流課	<p>「日本遺産を活かしたまちづくり推進事業」について説明する。 益田市は R2 年度より中世益田に関して日本遺産登録をしている。R2 年度から 3 年間はハード整備や情報発信コンテンツ造成に各種補助金を活用してきた。今年度からは支援期間が終了し、自走期間に入っている。また、昨年度からは地域おこし協力隊も雇用し日本遺産の推進を行っている。</p> <p>指標については、コロナの影響を受けたことに加え、集客施設であるグラントワが大きな耐震化工事に入り、大幅な利用制限がかかったことも重なり、実績が落ち込んでいる。R5 年度は現在のところ 70 万人を超えるか超えないかぐらいまで回復する見込みである。</p> <p>「都市交流推進事業」について説明する。 この事業については、大阪府高槻市、大阪府豊中市（空港絡み）、神奈川県川崎市との交流事業に取り組んでいる。例えば、夏休み期間中に川崎の子ども達に益田に来ていただき、益田の豊かな自然を体験してもらい、逆に益田の子ども達が川崎に行き、色々なイベントに参加するなどの交流を行っている。</p> <p>「益田版 DMO 支援事業」について説明する。 益田市内では、観光協会が旧市町のまま残っている状況がある。各観光協会と行政が一体的に取り組む、官民一体となって地域で稼ぐ力をつけていくということで、その舵取り役を DMO が担っていくこととなる。現時点では R6 年 1 月の登録を第 1 目標としているが、まだ具体的な申請ができるというところまで至っていない。来年度に 2 回申請の機会があるため、そこを目指して準備している。</p> <p>「石見神楽振興事業」について説明する。 石見神楽は石見地域に伝わる伝統芸能であり、観光誘客にとっても非常に大きなコンテンツである。この石見神楽をどういう風にブランド化していくかについて関係者と一体となって取組を進めている。</p>
委員	それぞれ 4 つの施策の効果が相まって観光入込客数に繋がるという認識のもとでの評価で良いか。
観光交流課	その認識で良い。
委員	「日本遺産を活かしたまちづくり推進事業」については、説明にもあったようにコロナ禍であったことや、グラントワの改修により相当影響を受けた事業だと感じる。

委員	「都市交流推進事業」について、この事業における観光入込客数をカウントする仕組みについて教えてほしい。
観光交流課	観光施設に立ち寄ったということであればカウントされる。川遊びなどはカウントできていないが、キャンプ場に宿泊した場合はカウントされている。
委員	交流できた子ども達がキャンプ場以外で宿泊した場合はどうなるか。
観光交流課	別指標の「宿泊者数」にカウントされる。
委員	観光交流で1,000人や2,000人と交流を図るといった目標はあるか。
観光交流課	その年に何人と定めたものはない。今後検討していきたい。
委員	「益田版DMO支援事業」について、DMOにする必要があるのか。観光協会を1本化するというように見えるが同じことなのか。
観光交流課	観光協会が1本になるかどうかは、最終的に観光協会が決めることになる。DMOとは一つの仕組みであり、地域で活動している方々の舵取り役を担うものである。国でもDMOという手法を取り入れる方向性になっており、重点的な支援もある。DMOの登録をすることで得られる補助金もある。
委員	R6年度登録ということだが、進捗状況はどうか。
観光交流課	市内事業者23団体に参画していただいているが、それぞれの想いというものがあり、調整は難航している。そこが決まらないと、具体的に目指していくものが定まらないが、ここは少し時間が掛かったとしても全体が納得した形にしたい。
委員	「石見神楽振興事業」について、補助金を出しているところはどこか。
観光交流課	委託料はカグラボ、社中、その他の団体の方が有志でつくっている団体に出している。補助金については、実行委員会に出している。
【評価】	別紙「総合戦略検証評価一覧表 3ページ シートNo.④⑤⑥⑦」のとおり
○基本戦略1「魅力あるサイクリングイベント実施回数」 対象事業：自転車活用推進事業（観光交流課）	
観光交流課	「自転車活用推進事業」について説明する。R2年度に自転車活用推進計画を策定し、これに基づいて、市民が気軽に自転車に親しめる環境の整備やサイクリングイベント、自転車体験教室を実施することで、自転車によるまちづくりを推進している。R2年度と3年度はコロナ禍で人が集まるようなイベントが出来なかった。R4年度においても年7回の目標を掲げたが、5回しか開催出来ず、R7年度対比で41.6%という状況である。 従前はオリンピック・パラリンピックの実行委員会があり、アイルランドの自転車競技の事前キャンプを誘致したこともあり、この実行委員会が主催するサイクリングイベントも色々あったが、その実行委員会はR3年度に解散した。今後は、民間団体や地域自治組織のような団体がサイクリングイベント等を開催する場合は、補助金を交付するという事でイベント実施のお願いをしている。
委員	イベント参加者は増えてきているのか。
観光交流課	参加者は増えてきている。先般も高津公民館の「つろうて子育て協議会」で、サイクリングを楽しんだ後にキャンプ飯を食べるといったイベントがあった。中学生や高校生といった若い層がスポーツ自転車に興味を持って、参加しており、年々伸びてきているように感じている。今週末にはNPO法人が主催のINAKAライドが開催予定で、こちらも全国各地から250～300名の参加が見込まれている。
委員	空港のサイクルステーションの利用具合はどうか。

観光交流課	こちらも厳しい状況が続いていたが、コロナ禍があけ、少しずつではあるが回復してきている。また、知名度が不足している点もあるため、それに対する取組も進めてきている。
【評 価】	別紙「総合戦略検証評価一覧表 7 ページ シートNo.⑧」のとおり
○基本戦略1「市補助金活用等支援事業者件数」 対象事業：産業振興推進事業（産業支援センター）	
産業支援センター	「産業振興推進事業」について説明する。事業内容としては商工業振興会議の開催経費と商品開発や販路開拓のための補助金というものになっている。 ※以降、補足資料のとおり R4 年度と R5 年度の状況について説明。
【評 価】	別紙「総合戦略検証評価一覧表 5 ページ シートNo.⑩」のとおり
○基本戦略1「市内の歴史文化施設（萬福寺・医光寺・雪舟の郷記念館）の拝観・観覧車数」 対象事業：歴史を活かしたまちづくり魅力発信・調査研究事業（文化財課）	
文化財課	「歴史を活かしたまちづくり魅力発信・調査研究事業」について説明する。進捗率としては R4 年度実績が 10,710 人となっており、R7 年度対比で 41.2%と厳しい数字が出ている。事業概要としては、文化財保存活用地域計画に沿い、益田市の豊かな歴史文化を活かしたまちづくりを推進しているところである。その指標として、歴史文化の施設にどれだけの拝観者が訪れたかを設定しているもの。やはりコロナの影響が大きかったと考えており、拝観者数は減少していたが、この間、日本遺産の認定や文化部門で様々な事業が進んでおり、案内サインや多言語対応などの整備が進んでいる。 ※以降、補足資料により各取組について説明。
委員	先ほどの説明を受け、事業の推進について頑張っているように感じたが、費用対効果でCをつけた理由を教えてください。
文化財課	達成率が非常に厳しい数字だったこと。また、取組自体は手前味噌だが、色々やってきたものの、やはり数字に繋がっていなかったためである。
委員	ガイドはボランティアの方か。
文化財課	そうである。一方で、有料で質の高いガイドの育成についても動きがあり、既存のボランティアの方を活かしつつ取り組んでいきたい。
委員	この指標の中には歴史文化交流館の入場者数はカウントされないのか。
事務局	歴史文化交流館の入場者については資料2（目標指標管理表）の23がこれにあたる。
【評 価】	別紙「総合戦略検証評価一覧表 5 ページ シートNo.⑫」のとおり
○基本戦略1「山陰自動車道（三隅・益田道路）の整備延長」 対象事業：国県事業推進経費、国県事業負担金（都市整備課）	
都市整備課	「国県事業推進経費」及び「国県事業負担金」について説明する。両事業とも高速道路網の整備促進を目的とした事業である。進捗管理において、現時点で開通済みの区間はないものの、事業は着々と進んでいる。また、国交省からは R7 年度開通見通しが公表されている状況である。山陰道の早期整備、国道9号の交通安全及び防災対策の推進等について、関係機関や関係国会議員に要望活動を行っている。
【評 価】	別紙「総合戦略検証評価一覧表 7 ページ シートNo.⑬⑭」のとおり
○基本戦略2「婚活支援イベント開催回数」 対象事業：婚活応援事業（子ども福祉課）	
子ども福祉課	「婚活応援事業」について説明する。この事業については、独身男女の出会いの場のイベント開催助成として、1 イベントについて10万円を助成するのが主なものとなっている。R2年度よりコロナの影響により実施が出来ていないという状況になっている。また、この事業の中で予算を持っている訳ではないが、島根県と連携をもって縁結びボランティア、ハッピーコーディネーターの活動

	支援も行っている。
委員	この事業はすごく重要で意義のあるものだと考えている。少子化対策の要として、経済的な支援も含めて色々な課と広域的に進めてほしい。
委員	他市町村では県外の女性を呼び、観光も兼ねるイベントを開催している。他市の取組も参考にしたら良いと思う。
委員	1 イベントに10万円は少し安い気もする。もう少し補助しても良いのではないか。
子ども福祉課	今年度から県の交付金を使いながら補助の拡充を行っている。
【評 価】	別紙「総合戦略検証評価一覧表 8ページ シートNo.⑮」のとおり
○基本戦略2「埼玉県方式学力テストでの1年間で伸びたレベル数」 対象事業：学力育成推進事業（学校教育課）	
学校教育課	「学力育成推進事業」について説明する。子ども1人ひとりの学力の伸びに着目したテストで、R4年度において国語科での期待値は3であったが、小学4年生から中学3年生で期待値に達している学年もあれば、そうでない学年もあり、平均として1.4という結果であった。
委員	テストは市内全校対象か。また、実施時期はいつか。
学校教育課	市内全校対象で、毎年5月に実施している。
委員	R3年度と4年度の実績が低いのはコロナの影響で学校閉鎖があったためか。
学校教育課	少なからず影響があったかと思うが、今年度の結果も平均が2ということもあり、全てコロナの影響とは言いにくいものがある。
委員	こういう形で学力測定、自分の立ち位置が分かるということは意義があることだと考えるが、次の目標は何かというものがあり、それを刺激して、自分たちが学習する段階でないと指標設定の意味がないように思う。その段階までのシナリオ作りにはなっていないように感じられるが、まずは特定することが肝要だということか。
学校教育課	本調査では各学校にデータが、児童生徒に個票が送られる。それには今回の調査内容や結果、それぞれの児童生徒の強み・弱みが記載されており、そういった点を振り返るような取組をしている。
委員	客観的に社会的な環境、家庭を後押しするようなものがあつたら良いと思う。
事務局	益田市では総合振興計画でも表しているとおり「ひとが育ち、輝くまち益田」の実現に向けて、各事業を行っている。その中の「ひとづくり」という部分、非認知能力というものだが、学校や公民館などの事業でそういうところを伸ばしている。その中で、学力等の認知能力部分についても同じような形で伸ばしていこうというところで、この学力テストを実施している。このテストの良い点は去年の自分と今年の自分を比べることができる点である。去年より伸びている、もっと頑張ればもっと伸びるかもしれないというところをモチベーションにしてもらえるよう、児童生徒に対し、学校や保護者の方から声かけし、実態が伴うような形に持っていけるようにしたい。
【評 価】	別紙「総合戦略検証評価一覧表 8ページ シートNo.⑯」のとおり
○基本戦略1「萩・石見空港東京線利用者数（無償搭乗者含む）」 対象事業：萩・石見空港利用拡大促進協議会負担金 萩・石見空港利用拡大支援事業負担金（観光交流課 空港対策室）	
観光交流課	「萩・石見空港利用拡大促進協議会負担金」及び「萩・石見空港利用拡大支援事業負担金」について説明する。萩・石見空港は産業振興や観光振興に欠かすことのできない社会基盤として位置付けられており、路線の維持のために、これらの事業を実施している。

	<p>目標指標については、R元年度14万人であったため、R7年度までに徐々に伸ばしていくということで設定していたが、コロナの影響で数年間に渡り、移動の制限や自粛要請があったため、実績値は低い状態である。R4年度はR元年度の75%まで回復した。なお、支援事業負担金について、R4年度の事業費実績が0円となっているが、これはANAの方から、目標数を下回るものの、コロナのことを配慮し、負担金の請求が行われなかったためである。</p>
委員	<p>会議所でも空港利用について一生懸命に取り組んでいるが、中々実績に結びつかない。先般、あるお客様が東京便を使われた際に、到着が遅れたことがあった。定刻通りであればバスがあるものの、40分くらい遅れたため、バスがなかった。また、タクシーもどこを呼んでよいか分からない状態だったようで、そうした場合のフォローが必要であると感じた。</p> <p>また、今の体制だと東京の日帰りができず、必ず1泊しなければならない。この点もどうにかできないかと思っている。</p>
委員	R5年度の進捗状況はどうか。
観光交流課	<p>現段階でR元年度の8割～9割近くまで回復しており13万人に届くかどうかという状況である。</p>
委員	<p>リピーターをもてなす事も大事であると思う。私も昔、ある空港でそういったサービスを受けたことがある。難しい部分だが、そういう要素があると同じ空港を使ってみようという気になると感じる。</p>
【評価】	別紙「総合戦略検証評価一覧表 7ページ シートNo.⑨⑩」のとおり
<p>○その他の目標指標について 事業効果のあった継続事業として一括判定 ※判定は各指標の達成状況による（詳細は別紙「総合戦略検証評価一覧表」のとおり） ※目標指標管理表（資料2）の23・24・25・33は評価の対象外</p>	
<p>(3)「『デジタル田園都市国家構想総合戦略』を踏まえた益田市総合戦略の改訂」について 事務局からの説明（資料3-1、3-2、3-3、3-4、3-5、アクションプラン）</p>	
事務局	<p>※内容について各資料のとおり説明 R6年度～7年度は一部改訂、R8年度から国の計画を踏まえた策定という流れで良いか。</p>
委員一同	提案どおり進めて良い。